

秘湯とは、世俗に染まっていない温泉を云うのだろうが、秘湯ブームの昨今そのようなものは少なくなっているようだ。秘湯は、人跡未踏とは言わないが、容易に人が踏み込んでいけない、苦勞して行かざるを得ないような場所にある温泉であることが第一の条件で有ることに異論はなかろう。鄙びた場所にあつてこそ秘湯と言うに相応しい。然し、それだけでは、不十分だ。超近代的な温泉宿は矢張り秘湯と言うには抵抗がある。古いけれども、小綺麗で手入れが行き届いた温泉宿、昔の湯治宿の風情があり、出来れば爺さんと婆さんが心を込めて手作りの家庭料理でお客をもてなしてくれ、更に料金が廉価であることも重要な条件か。このような条件に合致する温泉は少なくなっているようだ。出来るだけ、それに近い条件、即ち簡単には行けなくて、他の温泉とは一寸趣が違ふ温泉を山下の秘湯として列挙してみた。

道東地区には、道路地図等に記載されている温泉だけで、90個の温泉があり、日本有数の温泉地帯であると言えよう。各支庁別には、十勝支庁が34個（帯広市内には、10数個の公衆浴場型天然温泉（その大部分はモール温泉？）があり、これを含めると50個程度になる。釧路支庁は、20個だが、屈斜路湖周辺に集中し、根室支庁には8個と数少なく、網走支庁の東半分（5師団の警備地区）には28個と意外に多い。（細部のデータが欲しい方は、幕庶高橋1尉まで）

これ等の温泉が集中する地域は当然ながら、昔我々が学校で教わった千島火山帯と一致している。因みに、今は、千島火山帯を含みフォッサマグナ以東の火山地帯を東日本火山帯と称している。（疑問に思う方は、子供さんの教科書参照）
雪も融け、行動的な季節となったので、家族や恋人と出かけてみては如何だろうか。

● 十勝三大秘湯

① 岩間温泉

上士幌町十勝三股より音更川を遡り、大雪山近く秘湯中の秘湯である。溪流そばの露天風呂、コンクリート製浴槽とそこに至る丸木橋、アクセスは、石狩岳シュナイダーコース入り口までは良好なるもそれ以後は悪路、乗用車は川越の手前までである。残念ながら、駐車スペース少いとのことである。

② 然別峡温泉

- 菅野温泉：浴室8。夫々に特色あり7色の温泉とも云う。総イチイ作りの露天風呂 十勝で最も有名な温泉、日本有数の秘湯
- ホテル菅野の手前からキャンプ場を抜けて川沿いに露天風呂点在、正に知る人ぞ知る秘湯 その名は、「鹿の湯」、「メノコの湯」、「チニカの湯」、「ピラの湯」「テムジンの湯」「夫婦の湯」である。
川が増水して、入浴出来ないこともあるやに聞いたので、事前確認が必要であろう。

③ ヌブントムラウシ温泉

秘湯中の秘湯とも呼ばれた。トムラウシ温泉（十勝の秘湯の一つに数えられる）手前から10キロほど、非常に遠いけれども、一見の価値あり。冬場は無理です。

近くには避難所、脱衣所もあり、コンクリート製の浴槽あり。完全混浴。非常に高温の間欠泉であり、湯量と沢水をバルブで調整可能である。

- 湖水が多いと水没する温泉：さわと温泉(糠平湖畔)
温泉愛好者が発見し、各人の頭文字を取って名づけられた。彼等が最小限の施設を作ったけれども、それらは、国立公園法違反の咎で撤去されているようだ。
糠平湖を過ぎて丸山橋を越えて、右折、10キロほど、湖畔の露天風呂の浴槽
- 湖畔砂地からお湯が沸いてくる温泉：砂湯温泉 弟子屈町屈斜路湖畔
湖畔砂地よりお湯が沸いてくる。スコップなどで穴を掘る必要あり、無料湖で水浴びした後は、砂を掘って温泉にというのは如何！
同じく屈斜路湖畔には、コタン温泉、和琴の湯、池の湯という無料露天風呂あり。
- 滝壺の温泉：カムイワッカの湯滝：斜里町
知床大橋奥の駐車場から登山、硫黄山の中腹にある滝壺がそのまま温泉となっている。川を遡行、滝を登攀すること約20分程で目指す滝壺である。かなり酸性が強いという。草鞋かスニーカーが必需品である。言うまでもなく、川自体が温泉の温泉川であり、上流に行く程温度が高くなっている。滝壺の深さは150cm程度。
- 海岸波打ち際の露天風呂
 - セセキ温泉：羅臼町
海に突き出していて、満潮時には水没する。最果てではないが、如何にもそれらしい雰囲気あり。海の景色と国後島が絶景である。個人所有であるので、入浴の許可を得るマナーが必要。岩陰での着替えに幼き頃を思い出すのでは。
 - 相泊温泉：羅臼町
北海道の最も東にある温泉である。セセキ温泉から1km程。知床半島の車で行ける道路の終点の地、相泊にある。元々は地元の漁師が自前で作った温泉。防波堤とテトラポットの間の砂地に出来た温泉で、今は残念ながら海を見ながらとはいかないとか。
- 冬季限定の露天風呂：然別コタン温泉
凍結した然別湖に作られる露天風呂で、真冬の1月下旬から3月下旬に湖上に氷の村「然別コタン村」が出現し、そのイベントの一環として氷で作られた浴槽があり、湯を運んでくるのとのことである。
- 熱気球を楽しめる(有料1000円、5～10月中旬) 温泉：糠平温泉(上士幌町)
大正時代からの由緒ある温泉
- 道東最古の温泉：摩周温泉

(参考：各種のHPや小生の近くの者からの聞き取り)